

水面をすいすいと進むこのラッコは、本物の生きものではなく、3Dプリンターで作った「ラッコ型ポンポン舟」です。お腹の上には小さな燃料を載せる台があり、ここで発生した熱を利用して舟を前進させます。まるでラッコが仰向けになって水面を漂っているような姿ですが、その内部では昔ながらのポンポン舟と同じ原理が働いています。愛らしい見た目と科学の仕組みが一つになった、楽しい工作作品です。

ポンポン舟は、加熱された管の中で水が膨張と収縮を繰り返し、その力で水を押し出して進みます。エンジンや電池を使わずに走るため、動きはとても静かで、耳を澄ますと「ポンポン」という独特の音が聞こえることもあります。このラッコ型ポンポン舟も、水面を軽快に滑るように進み、ときにはゆったりと方向を変えながら泳ぎ回ります。その姿は、まるで本物のラッコが水辺で遊んでいるかのようです。

周囲には小さな魚や、ラッコの大好物である貝も浮かべてみました。海辺の情景を思わせる演出が加わることで、水槽やたらいの中が小さな海の世界に変わります。魚たちの間を縫うように進むラッコ舟を眺めていると、工作であることを忘れ、物語の一場面を見ているような気分になります。科学実験としても、模型遊びとしても楽しめる、見ていて涼しげなポンポン舟です。

